

## 第2学年 国語科学習指導案

児童 第2学年 男5名 女9名 計14名  
指導者 高橋 光弘

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう  
教材名 サンゴの海の生きものたち

### 2 単元について

#### (1)児童について

児童は、二年上「たんぼぼのちえ」で、時間の順序や理由付けを示す言葉に着目し、「ちえ」と「わけ」を見分け、整理して書く学習をしている。文章構成としては、一年下「どうぶつの赤ちゃん」で問いかけの部分を、「たんぼぼのちえ」でまとめの部分を読む学習をしている。また、二年下「お手紙」で、主語・述語を学習している。

これらの学習を通して、事柄の順序に気をつけて読んだり、文の意味を考えたりしながら内容の大体を読むことができるようになってきている。しかし、叙述に即して正確に読む力は十分とは言えない。

事前テストの結果を見ると、半数程度の児童は内容の大体を読み取ることができている。しかし、正確に読み取ることができない児童が1/3ほどおり、学習意欲も含めて個人差が大きい。

#### (2)教材について

本単元における読むことの主な指導事項は、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」（読むことイ）である。

本教材「サンゴの海の生きものたち」は、典型的な説明文の形式をもち、四つの部分で分かりやすく構成されている。第一・第二段落で全体への問いかけがあり、第三段落から第六段落にかけて一つ目の具体例、第七段落から第九段落にかけて二つ目の具体例を提示して説明し、第十段落で問いかけに対する結論をまとめている。二つの具体例の説明では、それぞれの生き物の体の仕組みと、お互いがどのように役に立ち、関わり合っているのかについて述べている。

したがって、専門用語や生き物の名前が多く出てきているにもかかわらず、2年生でも比較的理解しやすい構成になっている。それゆえ、事柄の順序に気をつけながら内容の大体を読むのに適した教材である。

#### (3)指導について

本教材に出てくる4種類の生き物、2つの関わり合いを明確に読み取らせるため、どんな体の特徴なのか、お互いがどんなことをし、どんな得になるかをしっかり押さえさせたい。そのために、各段落の中心になる文や語句にサイドラインを引かせたり、主語と述語の関係を確認したりしながら読み取った内容を深めさせていきたい。また、学習プリントを用いたり、立体的に視覚へ訴えたりすることで、関わり合いを明確にさせていきたい。文章全体の構成として、問いかけの部分を丁寧に読み、読み進める方向付けをすることで、「始め・中

・「終わり」を把握させたい。

また、この教材を学習する過程において、驚き共感しながら読み進めることで、「広げる」では、「海の生きものずかん」作成のために子供たちが進んで海の生きものの本を読んで調べていけるようにしたい。

(4)家庭学習と授業とのつながりについて

つかむ	・漢字練習 ・音読（予習）
深める	・音読（予習・復習） ・次時に学ぶ段落をノートに視写 ・授業作文
広げる	・海の生き物の調べ学習（家の人に聞く） ・海の生き物についての本を読む

3 単元目標

(1)関心・意欲・態度の目標

海の生き物の共生関係や、説明文の組み立てに興味をもって読もうとしている。

(2)能力の目標

◎「サンゴの海の生きものたち」が互いに役に立っていることを、書かれている説明の順序を考えながら読むことができる。（読むことイ）

○語や文のまとまりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読むことができる。（読むことア）

(3)伝統的な言語文化と国語の特質に関する目標

片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ）

4. 単元の指導・評価計画（11時間）

過程	時	学習活動（指導内容）	評価規準		
			国語への関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語についての知識・理解・技能
つかむ	1	・教科書の写真を見て、海の中のイメージを広げる。 ・本文の範読を聞いて、感想を発表する。 ・単元のめあてを確認する。	生きものについて興味を持って読み、写真を見て気付いたことを発表しようとしている。	どんな生きものがどのように暮らしているのかに気を付けて読んでいる。	既習の漢字を使いながら、感想を書いている。
	1	・内容の大体をつかんで意味段落に分ける。 ・学習計画を立てる。	すすんで学習の課題をつかもうとしている。	文章の段落構成を意識して読んでいる。	よびかけの「～ののでしょうか。」の言い方に気を付けている。

深める	1	・イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取る。	イソギンチャクとクマノミについて興味をもって読もうとしている。	イソギンチャクとクマノミの体の仕組みの大体を読み取っている。	「だれの何がどんなだ」を正しくとらえている。
	1 本時	・イソギンチャクとクマノミの関わり合いを読み取りまとめる。	イソギンチャクとクマノミの関わり合いについて興味をもって読もうとしている。	イソギンチャクとクマノミの関わり合いを事柄の順序を考えながら読み取っている。	「だれがどうする」を正しくとらえている。
	1	・ホンソメワケベラの特徴と、ホンソメワケベラの様子を読み取る。	ホンソメワケベラの特徴と、ホンソメワケベラの様子について興味をもって読もうとしている。	ホンソメワケベラの特徴と、ホンソメワケベラの様子の大體を読み取っている。	主語と述語に気をつけて読んでいる。
	1	・ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いを読み取りまとめる。	ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いについてまとめようとしている。	ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いを事柄の順序を考えながら読み取っている。	「～からです。」や「～のです。」という表現をとらえている。
	1	・生きものたちの関わり合いを振り返る。	他の海の生きものやその関わり合いについて興味をもっている。	海の生きものたちへの感想や疑問、さらに知りたいことなど自分の考えをもつて読んでいる。	「このように」のはたらきを意識している。
ひろげる	2	・生きものについての本を探して読む。	生きものに関心を持ち、本をすすんで読もうとしている。	自分の知りたいことについて探して読んでいる。	主語と述語に気をつけて読んでいる。
	2	・「海の生きものずかん」をつくる。	読み取ったことを進んで絵と文にまとめようとしている。	(書く能力) 読み取った内容について自分の考えを、工夫しながらカードにまとめている。	体の特徴をとらえて、「～です。」「～ます。」と書いている。

5. 教材分析

<p>言語事項</p>	<p>&lt;指示語&gt; それら、どんな、その、これ、この、こうして、このように、          &lt;接続語&gt; でも、だから、          &lt;文末表現&gt; ~ののでしょうか。 ~ます。 ~です。 (でも) ~ません。</p>
<p>話の順序</p>	<p>①サンゴの海には、互いに役に立つように関わり合って暮らしているものがある。          ②生き物たちの関わり合いを見てみよう。          ③イソギンチャクとクマノミは、一緒に暮らしている。          ④イソギンチャクとクマノミの体の仕組み。          ⑤クマノミがイソギンチャクに守ってもらう様子。          ⑥イソギンチャクがクマノミに守ってもらう様子。          ⑦ホンソメワケベラの特徴。          ⑧大きな魚がホンソメワケベラに掃除をしてもらう様子。          ⑨ホンソメワケベラが掃除した虫は食べ物になる。          ⑩このようにサンゴの海では、生き物たちが関わり合って暮らしている。</p>
<p>文章構成</p>	<p style="text-align: center;"> </p>
<p>筆者の思い</p>	<p>サンゴの海には、互いに役に立つように関わり合って暮らしている生き物たちがいる。自然の世界では、異なる種類どうしであっても互いに助け合って暮らしていることを知り、新たな発見や共感の喜びを知ってほしい。</p>
<p>発 展</p>	<p>海の生き物の本を読み、読み取ったことを文と絵にまとめてカードに書き、全員分をまとめて「海の生きものずかん」を作成する。</p>

6. 本時の指導

(1) ねらい

イソギンチャクとクマノミの関わり合いを読み取りまとめることができる。

(2) 展開

	学習内容・学習活動	・教師の働きかけ ●家庭学習を生かした働きかけ 「主発問」 ○評価（評価方法）
つ か む	1 前時までの学習を想起する。	●前時の学習の振り返りとして、授業作文を読ませ、イソギンチャクとクマノミの特徴について振り返る。 ○イソギンチャクとクマノミの特徴を理解している。 (授業作文)
7 分	2 本時の学習課題を把握する。 イソギンチャクとクマノミがどのようにかかわっているのかまとめよう。	
深 め る	3 学習する段落を音読する。 (⑤⑥段落)〈段落読み〉	●良かったところ、がんばったところを評価し、家庭での音読の意欲化へつなげる。
35 分	4 課題を解決する。 (1) 登場する海の生き物たちを確かめる。 ・イソギンチャク ・クマノミ ・大きな魚 ・小さな魚	
	(2) イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを、大きな魚とのかかわりから読み取る。 【一人学び】 【収束する学び合い(全体)】	
	(3) イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを、小さな魚とのかかわりから読み取る。 【一人学び】 【広げる学び合い(全体)】	「大きな魚は何をしに来ますか。」 「イソギンチャクはどうしますか。学習プリントに書きましょう。」 ・イソギンチャクの体の特徴を思い起こさせながら考えさせる。 ・イソギンチャクとクマノミのペープサートを準備しておき、中にいるという様子をイメージさせる。  「小さな魚は何をしに来て、クマノミはどうしますか。学習プリントにまとめましょう。」 「イソギンチャクを食べにくる小さな魚は、毒の針に刺されないのでしょうか。」 ・クマノミが刺されないわけを思い起こさせながら、児童の考えを広げさせたい。

	<p>(4) イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめる。</p>	<p>「イソギンチャクとクマノミは、どのようにかかっているのかまとめましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに守り合い一緒に生きていることをおさえない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈評価〉</p> <p>A イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>B イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめることができる。</p> <p>Cへの支援</p> <p>指示語に着目させながら、文章中から抜き出すようにさせる。</p> </div>
<p>まとめる 3分</p>	<p>5 学習のまとめをする。 (1) 自己評価をする。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、自分の読み取りへの達成感をもたせるようにする。</li> <li>○イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取ることができたか。(学習プリント、発言)</li> <li>●イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて授業作文を書いてくるように働きかける。</li> </ul>

(3) 板書計画

